



# 2023 レスポンジブル・ケア活動報告書

2023 Responsible Care Activity Report



# もくじ

環境・安全・健康を守り  
信頼される事業所をめざして

1	事業所長あいさつ	2
2	茨城事業所の概要	3
3	茨城事業所のRC（レスポンシブル・ケア）活動	5
4	茨城事業所の運営方針について	
	K A I T E K I 鹿島 2025 の取り組み	7
	カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーへの取り組み	9
	茨城DX推進の取り組み	11
5	環境保護への取り組み	
	環境マネジメントシステム / 環境管理施設マップ	13
	廃棄物の管理 / 緩衝緑地帯の保護 / 法改正等への対応	15
	環境保全の実績 / エネルギー消費量削減	16
6	品質保証・製品安全への取り組み	17
	事業所の風景	18
7	保安防災への取り組み	19
8	労働安全への取り組み	21
9	地域・社会から信頼される事業所をめざして	23
10	多様な人材がイキイキと活躍できる職場づくり	25
	職場紹介（ポリエチレン課）	27
11	昨年度RC活動報告書へのご意見・ご感想	29

【報告対象範囲】 集計データについては2022年4月から2023年3月までを対象とし、関連事例・記事などについては2023年9月までの活動が含まれています。

【対象組織】 三菱ケミカル(株)茨城事業所  
※同敷地内にあるグループ会社の日本ポリエチレン(株)、  
日本ポリプロ(株)を含みます。



# 1 事業所長ごあいさつ

私たちは、革新的なソリューションで、  
人、社会、そして地球の心地よさが続いていく  
KAITEKIの実現をリードしていきます



1

事業所長ごあいさつ

私たち三菱ケミカルは、事業活動を通して暮らしの中で役立つ製品・サービスを安定的に提供することで、「KAITEKI」な社会の実現に貢献したいと考えています。

茨城事業所では、この「KAITEKI」の実現に向け、事業所のありたい姿を「社会貢献しながら、全員が活躍しているケミカル製造拠点」と定め、

- 社会が必要とするケミカル素材を安全・安定・最適操業のもと供給し続けている
- プラスチックリサイクル、GHG削減を実現・促進させ、地球環境問題の解決に貢献している
- 多種・多様な仲間が集い、一人ひとりが成長を感じながらイキイキと活躍している

事業所の実現をめざし、2021年度からの事業所中期運営方針「KAITEKI 鹿島2025」のもと取り組んでいます。

現在、世界的に問題となっている地球温暖化や廃プラスチック汚染問題を踏まえ、2022年9月に茨城県と戦略的パートナーシップ協定を締結し、茨城臨海部を拠点としたカーボンニュートラル産業拠点の創出に向けた連携・協力を図りながら、プラスチック資源循環やバイオ由来原材料への転換、二酸化炭素の原料化、新エネルギーおよび再生エネルギーの確保など、様々な取り組みを進めています。

これからも私たちは、化学の力で、社会課題の解決に向けた製品やサービスの提供に取り組んでいきます。

最後に

私たちは、多くのステークホルダーの皆さまのご理解・ご協力に支えられて、事業所を運営しています。これからも、安全と環境保全に努め、皆さまに信頼される茨城事業所をめざしてまいりますので、引き続きご支援・ご協力を賜るとともに、本報告書に対する忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

三菱ケミカル株式会社  
茨城事業所長

加藤 大雄

※「KAITEKI」とは、「人、社会、そして地球の心地よさがずっと続いていくこと」を表し、環境・社会課題の解決にとどまらず、社会そして地球の持続可能な発展に取り組むことを提案したMCGグループオリジナルのコンセプトです。

# 2 茨城事業所の概要

2

茨城事業所の概要

- 所在地 茨城県神栖市東和田17-1
- 敷地面積 160万m<sup>2</sup>
- 操業開始 1971年1月
- 従業員数 761人(2023年9月現在)

- 排出量(2022年度)
- 廃棄物としての排出 9,346トン/年
- 公共水域への排出 9千2百万 m<sup>3</sup>/年
- 大気への排出
- NOx(窒素酸化物) 411トン/年
- SOx(硫黄酸化物) 0トン/年
- ばいじん 0.7トン/年
- PRTR物質 18トン/年  
(化学物質排出移動量届出制度)



## 茨城事業所で生産している製品の用途例

### ポリプロピレン

自動車の各種部品



ドアモジュール



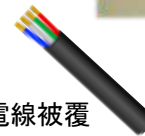
### ポリエチレン

自動車の燃料タンク



パイプ

電線被覆



医療器具



食品包装材



家電用品



ボトル



フィルム  
(無添加米袋)



ラミネート  
(液体紙容器)

### 酸化エチレン

洗剤



### エチレングリコール

ポリエステル繊維



自動車の  
不凍液



### エチレンカーボネート

リチウムイオン電池



### ビスフェノールA

DVD、ブルーレイディスク  
(ポリカーボネート樹脂)



塗料(エポキシ樹脂)

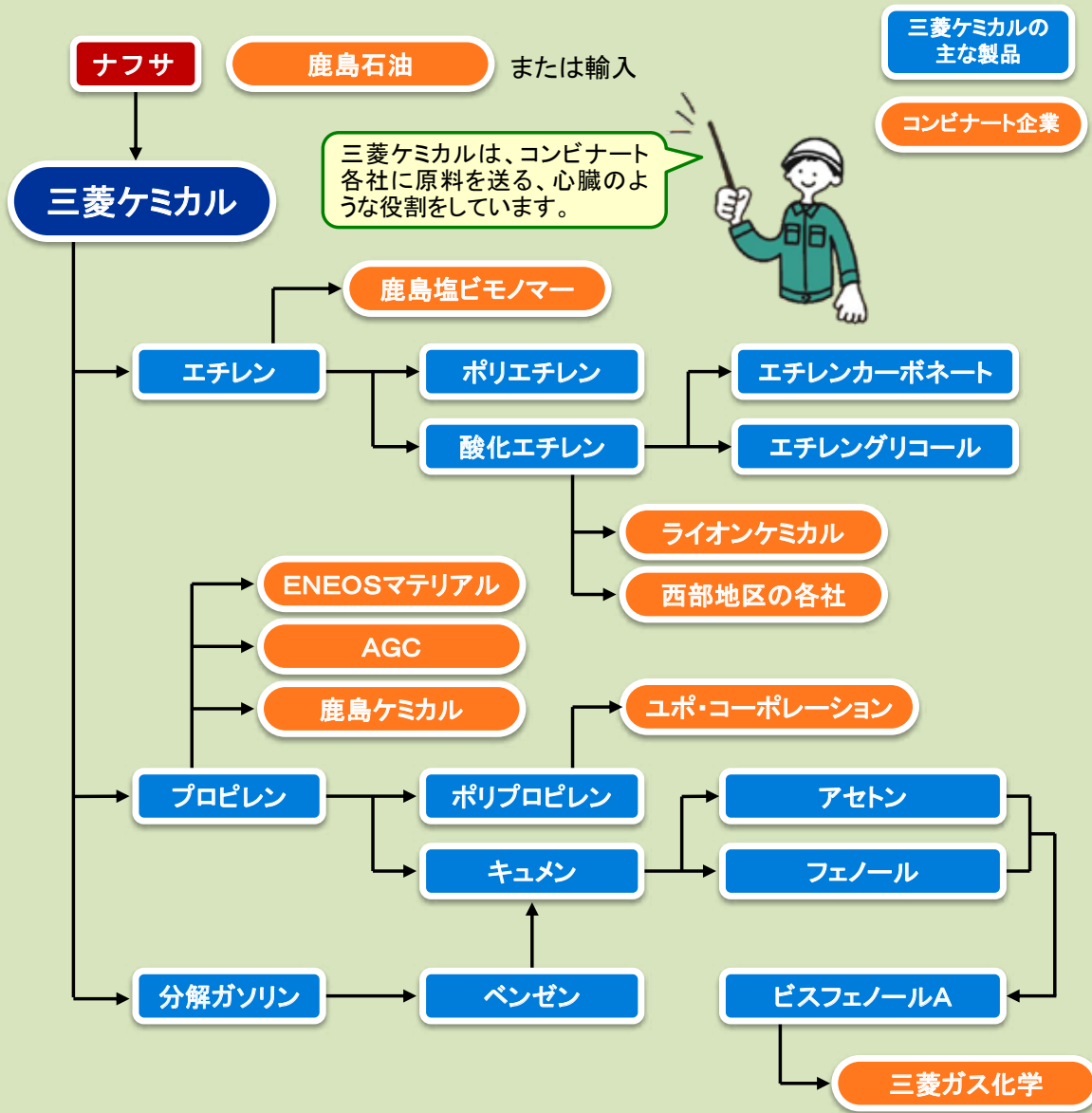
## コンビナートの中の茨城事業所

世界最大級の掘込式人工港を有する鹿島臨海工業地帯は、農業と工業が共存共栄することを目指す「農工両全」の開発理念のもと、1960年代前半から開発が進められ、わが国における主要生産拠点として発展してきました。2,400万m<sup>2</sup>もの広がりを持つ工業用地は、石油精製、石油化学、電力、鉄鋼、機械、飼料、化学、住宅関連等、様々な企業で形成されています。

また、周辺には、農業地域や住宅地、緑地、公園などが計画的に配置されており、これら豊かな自然環境と調和するこの工業地帯の様子は、自然と農業と工業のバランスの取れた開発の総合芸術といわれています。

三菱ケミカル茨城事業所では、「ナフサ」とよばれる原料を出発点に、あらゆる産業と生活に密着した基礎化学製品を生産しています。そして、生産した製品はコンビナート各社をはじめとするお客様のもとで加工され、私達の生活に身近な製品となっていきます。

【茨城事業所の主要製品とコンビナート各社とのつながり】



# 3 茨城事業所のRC (レスポンシブル・ケア) 活動

## 三菱ケミカルグループの環境安全ポリシー

三菱ケミカルグループ株式会社(MCG)グループの一員である三菱ケミカルでは、「三菱ケミカルグループ環境安全ポリシー」に則り、環境安全推進の体制を整備し、地球環境の保全と従業員をはじめとするステークホルダーの安全確保のため、環境安全の課題に取り組んでいます。

また、行動災害の防止のため「MCGグループ 安全の基本行動」を策定し、全従業員がお互いに声をかけ合って基本行動を実践することで、相互啓発型の組織をめざしています。

### 三菱ケミカルグループ環境安全ポリシー

1. 環境安全に関する法令および社会的ルールを遵守し、環境安全活動の管理レベルを継続的に向上します。
2. 企業存立の基盤である安全を確保するため、事故・災害ゼロを追求し、継続的にリスクを低減します。
3. すべての企業活動において、環境に与える影響を評価し、継続的に環境負荷を低減します。
4. 環境安全に関する教育訓練を行い、環境安全に対する意識の高い人材を育成します。
5. 社会からの理解と信頼を向上するため、環境安全に関する情報を積極的に開示し、地域社会への参画と良好なコミュニケーションの構築に取り組みます。

### 安全の基本行動

1. 階段昇降時は手すりをもつ
2. 動くものには手を出さない
3. 手元を見ながら歩かない

## 茨城事業所のRC方針

茨城事業所では、「三菱ケミカルグループ環境安全ポリシー」に基づいて、安全安定操業を達成し、従業員が安心して働ける環境と、地域・社会から信頼される事業所を実現するため、事業所の「RC方針」を定めています。

### 茨城事業所 RC方針

- 1 「環境・安全」の確保は、事業活動の大前提
- 2 お客様への安心の提供と品質保証
- 3 事故および労災はゼロ目標
- 4 廃棄物および化学物質の排出の最少化の推進
- 5 省資源および省エネルギーの推進
- 6 「環境・安全」のための技術、製品開発の推進
- 7 社会からの信頼向上

私たちはこの「茨城事業所RC方針」を全従業員に浸透させ、一人ひとりが常に意識して行動するために、事務所や会議室に掲示するとともに、従業員全員が所持している社用スマートフォンでいつでも閲覧できるようにしています。

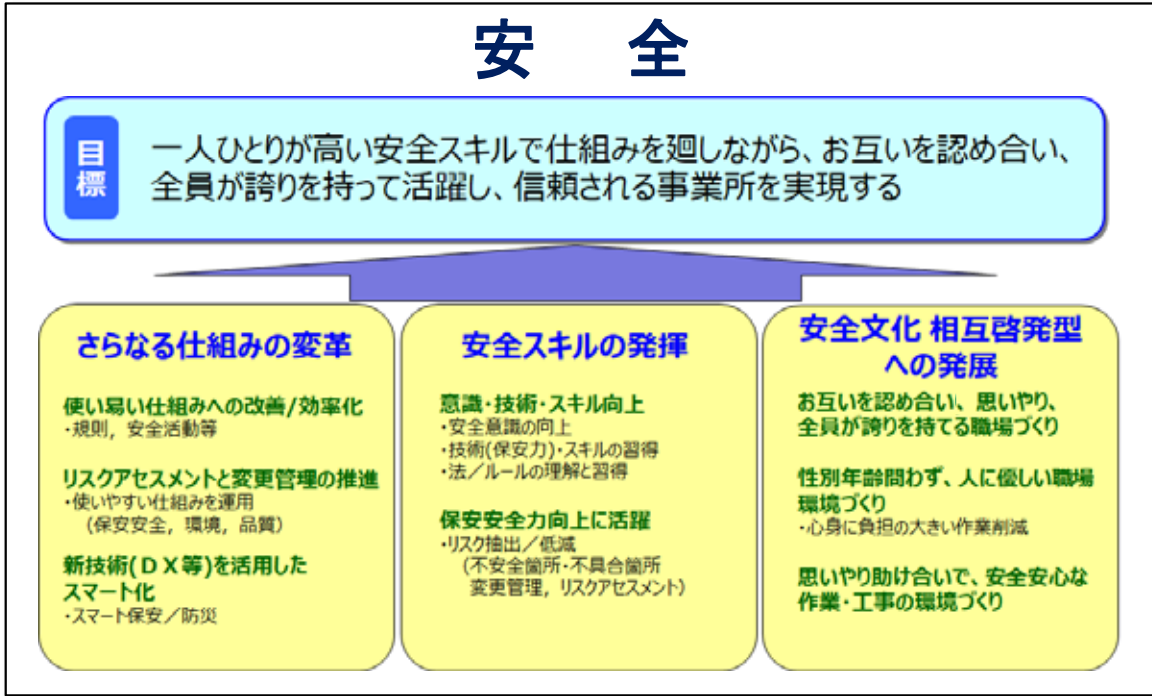


「RC (レスポンシブル・ケア) 活動」とは

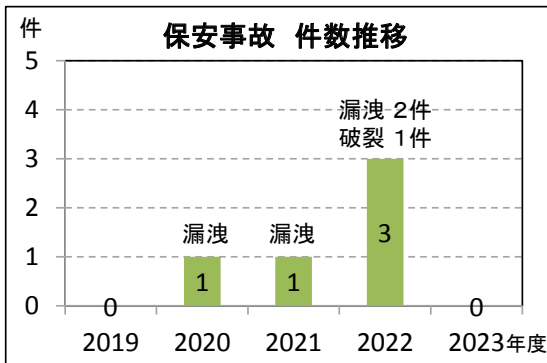
化学品を取り扱う企業が、化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るすべての過程において、環境・健康・安全を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う自主活動です。

## 茨城事業所のRC活動と成果

環境安全ポリシーやRC方針に基づき事業所のあるべき姿（目標）を定め、「さらなる仕組みの変革」、「安全スキルの発揮」、「安全文化 相互啓発型への発展」の3つを安全の重点項目として、目標達成に向け様々な活動に取り組んでいます。

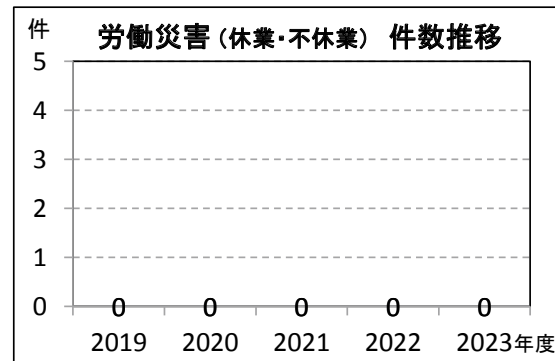
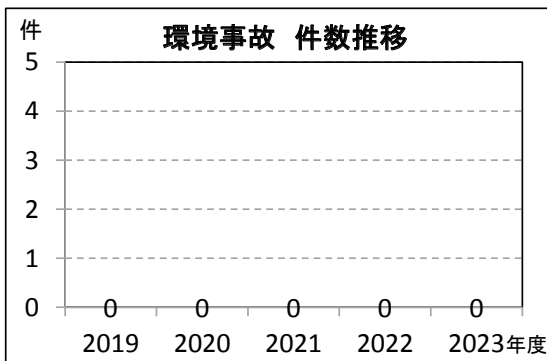


【過去5年間の茨城事業所の災害発生状況】



2023年9月末現在、労働災害、保安事故、環境事故ともに、今年はずゼロを継続しています。

保安事故については、2020年から昨年まで続けて事故を発生させてしまいましたが、本質的な原因を掘り下げ、その教訓を設備管理、運転管理に落とし込むべく取り組みを続けており、今後も事故・災害のない事業所の構築に全力で努めていきます。



# 4 茨城事業所の運営方針について



## 「KAITEKI 鹿島 2025」の取り組み

2030年にめざす姿

社会貢献しながら、全員が活躍しているケミカル製造拠点  
「社会」「地球」に貢献し、「人」がイキイキと活躍する事業所をめざします

めざす姿に近づくための  
事業所の取り組み

「KAITEKI鹿島2025」とは、  
2030年の事業所の姿を描き、2025年までに“必要な要素と取り組み”をまとめた中長期計画です。



KAITEKI鹿島2025



### KAITEKI鹿島2025について

- ものづくりの重要な要素をまとめた“ものづくり基盤強化”
- 会社、地域、社会における事業所の存在意義を高める要素をまとめた“事業所価値向上”

を両輪として取り組んでいます。実現に向けた手段として積極的にDX技術を活用し、「KAITEKI事業所」を実現していきます。

KAITEKI鹿島2025の要素の中から、次の3つを紹介します。

- ①次世代技術を活用し持続可能な社会へ挑戦する取り組み
- ②自律的に行動できる人材の育成に向けた取り組み
- ③DX推進の取り組み



### ①次世代技術を活用し持続可能な社会へ挑戦する取り組み

使用済みプラスチックを基礎化学品の原料として再生利用するケミカルリサイクルや、バイオ由来原材料への転換など、カーボンニュートラル産業拠点の創出に向けた取り組みを、茨城県と連携・協力して行っています。



P 9～10で詳細な取り組みを紹介しています

### ②自律的に行動できる人材の育成に向けた取り組み

各職場でも高レベルな教育を受けられる環境づくりとして、教育カリキュラムのオンデマンド化を進めています。また、学習者のペースで、いつでも受講したい講義や資料を選択して納得いくまで学べる、新たな学びと育成のスタイルを構築しました。

- 学びのサポート**
  - E職の部屋** — 142講座
  - T職の部屋** — 74講座
  - 安全体験動画** — 14の危険事象動及び解説資料
  - 語学スキルの部屋** — 各種資格の教材集
  - 語学支援の動画** — Udemiy Business 動画リンク・社内支援の案内
  - 資格支援の部屋** — 資格支援テキスト
  - 社内ポータルリンク集**
  - 社外研修サイトリンク集**

学びたい時に、  
学びたいことを選んで  
何度でも学習することができる！

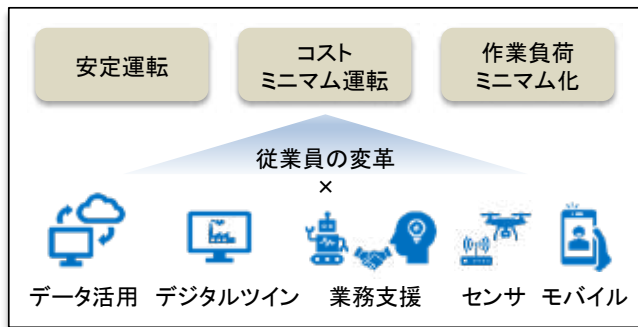


E職：Expert（事務関連や製造技術、設備技術職）  
T職：Technician（プラントオペレータ等の現場実務職）  
Udemiy Business：  
（株）ベネッセコーポレーションが提供する企業向けオンライン講座

### ③DX推進の取り組み

国内トップクラスのデジタルインフラを活用して収集した様々なデータを、先進的な技術を駆使してプラントの運転管理や設備管理に活かすことで、国内No.1の基礎化学品プラントの構築をめざしています。

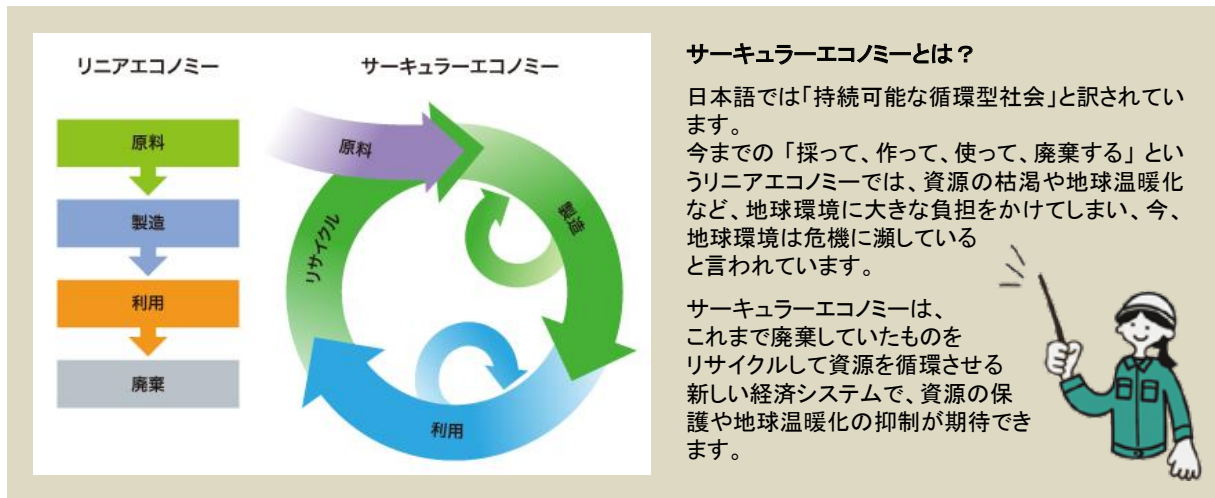
P 11～12で詳細な取り組みを紹介しています



## カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーへの取り組み

世界は、気候変動や人口増大に伴う諸問題など、多くの解決すべき課題を抱えています。化学の技術は様々な社会課題を解決できる大きな可能性を有しており、三菱ケミカルは、社会の一員として、これらの課題に正面から向き合ってきました。特に近年は、各国の環境規制強化などを受け、サステナブルな製品に対するお客様からのご要望が日に日に高まっています。

三菱ケミカルは、従来の「採って、作って、使って、廃棄する」という一方通行のリニアエコノミーから、リサイクルを含む資源の有効活用や再生可能原料の使用などをはじめとするサーキュラーエコノミー（循環型経済）への移行を推進することにより、社会からの要請に応えつつ、持続的な成長をめざしていきます。



茨城事業所では、化石資源であるナフサからエチレン、プロピレンを製造し、そこからさらに様々なプラスチック等を製造しています。近年、持続可能な循環型社会の実現に向けて、プラスチックのリユース・リサイクルに関するニーズが高まっています。また植物由来の原料を用いることによる持続可能なライフサイクルの実現も強く期待されています。

そこで茨城事業所では、原料であるナフサの代替として、不要となったプラスチック（リサイクル材）や植物由来のバイオエタノール（バイオマス）を利用することにより、持続可能なモノ作りの実現に向けた検討を進めています。

### 私たちが考える プラスチック循環の形



## 茨城県との戦略的パートナーシップ協定

三菱ケミカルと茨城県は、2022年9月12日に締結した“カーボンニュートラルの実現に向けた戦略的パートナーシップ協定”に基づき、鹿島臨海工業地帯における循環型コンビナートの形成や茨城臨海部を拠点としたカーボンニュートラル産業拠点の創出に向け、地域経済の持続的な発展と、わが国における循環型社会およびカーボンニュートラルの実現をめざしています。

### ■連携・協力事項

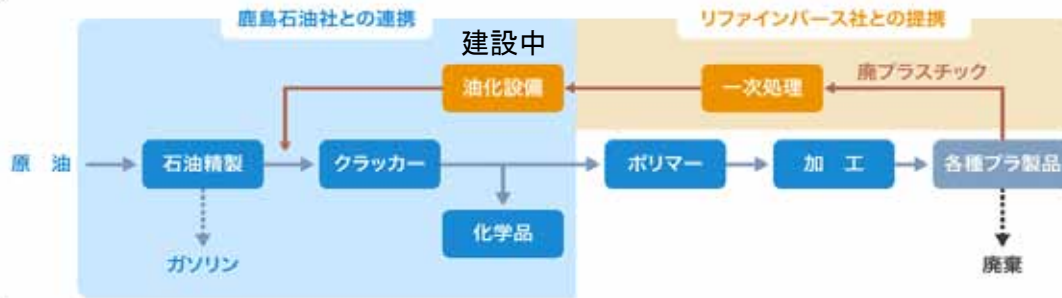
- (1)ケミカルリサイクルによるプラスチック資源循環に関すること
- (2)化石燃料由来からバイオ由来の原材料への転換に関すること
- (3)コンビナートから排出される二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の原料化に関すること
- (4)新エネルギーおよび再生可能エネルギーの確保に関すること

## プラスチックを原料としたエチレン・プロピレンの製造

三菱ケミカルとENEOS社は、不要となったプラスチック製品を再び新たな石油製品や各種プラスチック製品へと再製品化するケミカルリサイクル設備(油化設備:年間2万トンの処理能力、国内最大規模)を、2023年度の稼働をめざして、三菱ケミカル茨城事業所内に建設中です。

また、本事業に必要な原料である廃プラスチックの回収システムは、リファインバース社との資本業務提携に基づき構築していきます。

<ケミカルリサイクルのしくみ>



【ケミカルリサイクルプラント建設の様子】



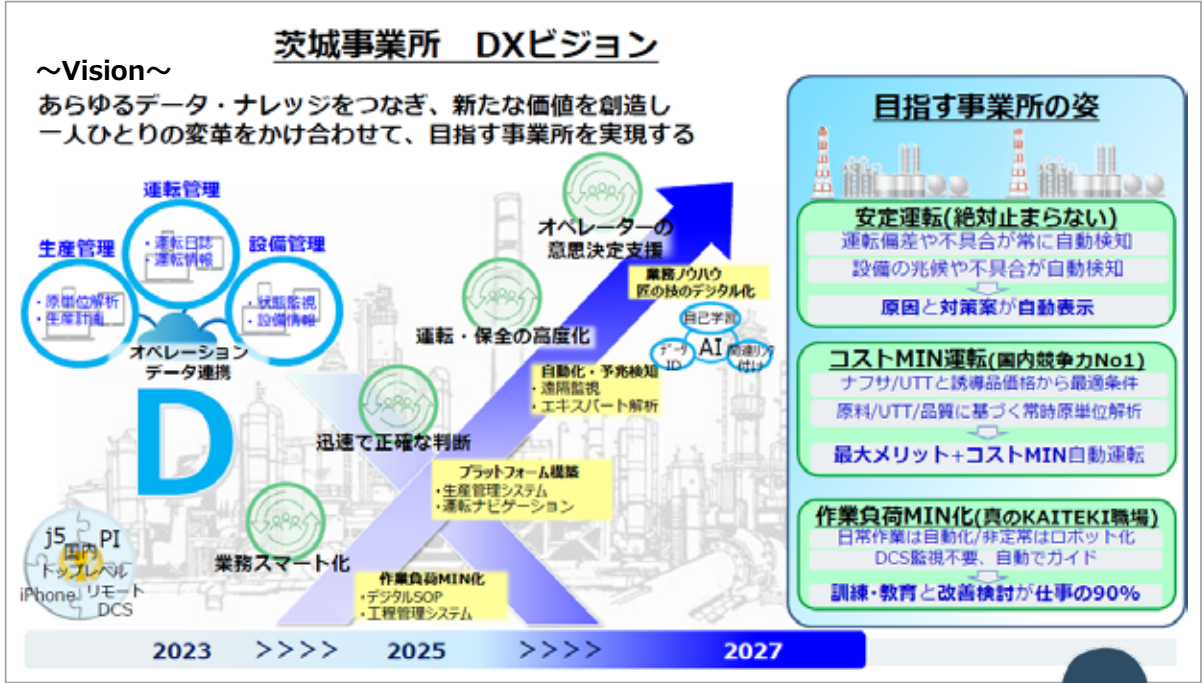
## 植物由来原料を用いたエチレン・プロピレンの製造

三菱ケミカルは、包装・容器、衛生用品のうち、回収・リサイクルが一般的に困難であるものなどをはじめとした幅広いプラスチック製品を、より持続可能なものとするため、バイオエタノールを原料に、100%植物由来のバイオエチレンとその誘導品を製造し、そのバイオエチレンを原料として、国内初となる植物由来のバイオプロピレンおよび誘導品の製造・販売開始に向けて、事業化を検討中です。



## 茨城DX推進の取り組み

持続的な成長やプラントの安定化、高効率化など、茨城事業所を取り巻く課題に対し、戦略を立て、継続的な改善や変革を進める必要があります。  
これら諸課題に対応すべく、DXビジョンを作成し、茨城事業所の進む方向を示しています。



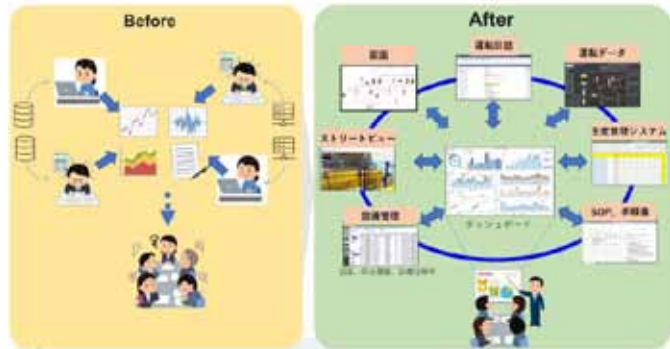
ナレッジとは、一般的に「有益な情報」「付加価値のある経験や知識」のことをいいますが、これらに加え「従業員の匠の技(こころ)」を示しています。



### オペレーションデータ連携

現在、茨城事業所では、国内トップクラスのデジタルインフラを活用し、様々なデータを幅広い視点で分析し、常に最適な意思決定を支援できるシステムの構築を進めています。

- ・プラントの運転データ
- ・設備の保全データ
- ・現場のリアルな情報
- ・SOP(運転指針)
- ・社員の知識、知見などのノウハウ



【オペレーションデータ連携の概念図】

複数の情報を連携させ総合的な解析をすることによって、これまでのデータ解析では分からなかった深い洞察や傾向の把握ができるようになり、より安定した「絶対に止まらないプラント」の実現をめざしています。

将来的にはAIを活用して「生産効率の向上」、「問題の早期発見」、「リスクの軽減」などを可能とし、真に「KAITEKIな事業所」をめざします。

### プラント運転データの活用

運転データ等の情報の保存、生産計画や日報活用のために「PI System」を導入しました。

さらに、蓄積した数十年分の運転データを基に解析等に活用し、プラントの安定運転に寄与しています。

- ◆長期間大量のデータを保存
- ◆プロセス解析やエネルギー管理、品質管理に活用

PI System 監視画面(例)



**PI Systemとは**  
プラントデータの収集、保存、可視化をし、分析、最適化などを支援するツールです。



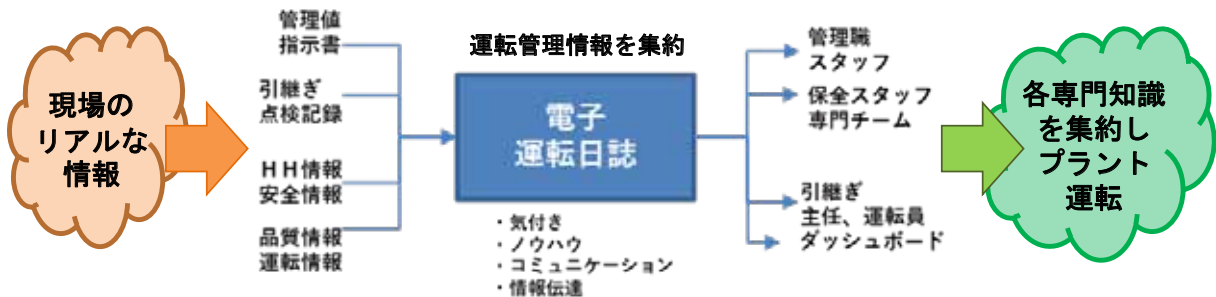
### 設備保全データの活用

異常兆候の早期発見とトラブルの未然防止を目的に、数多くの機器に無線振動計などのIoT(Internet of Things)センサを導入しています。得られたデータは、常時、状態診断・監視に活用しており、メンテナンスのタイミングなどを的確に把握することで、トラブルの未然防止を図っています。



### 運転管理システムの活用

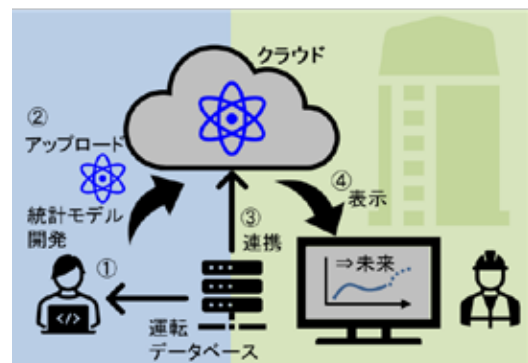
「運転日誌」、「設備点検データ」、「ヒヤリハット情報」、「安全情報」など、現場でリアルに発生している情報を収集し、常に把握することで、現場の変調に対して即座に専門スタッフの知識を集約し、安全に対処できるようにしています。



### クラウドシステムの活用

クラウド上のシステムに、開発した統計モデルを置き、運転データとリアルタイムに連携させて解析を行い、結果をプラントの運転に反映することで、パフォーマンスを最適化しています。

- ◆機械学習、統計解析等の専門的な技術検討の展開
- ◆現状の運転データを基にした解析結果を運転に反映



# 5 環境保護への取り組み



茨城事業所では、環境マネジメントシステム(ISO14001)を運用し、生活環境保全を推進することで、環境にやさしい事業活動をめざしています。

5

環境保護への取り組み

## 環境マネジメントシステム

茨城事業所では、2001年3月よりISO14001(環境マネジメントシステム)の認証を取得し、現在は2015年に発行された最新のISO14001国際規格に基づいて、計画的に環境保護に取り組んでいます。

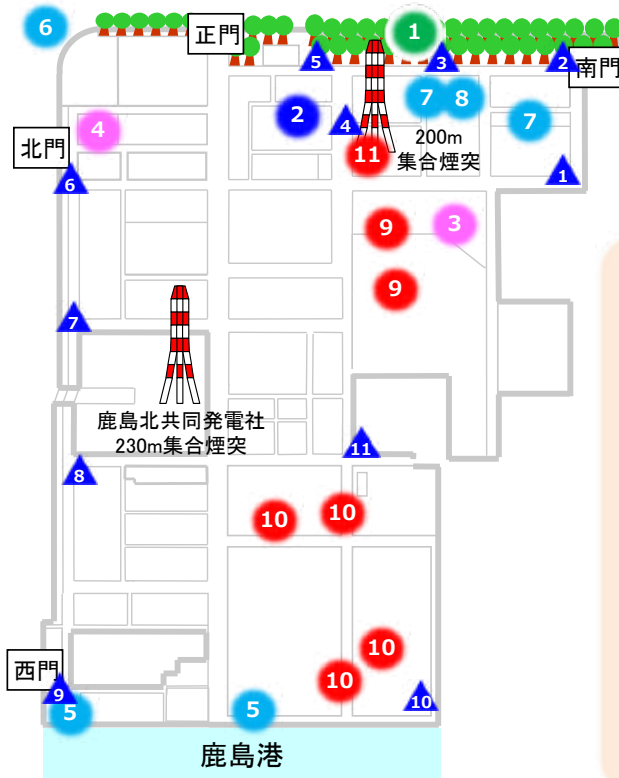
ISO14001とは、

環境改善を継続的に行うために、組織の活動を体系的、効率的、効果的に運用するための仕様を定めた国際規格です。



## 茨城事業所の環境管理施設マップ

茨城事業所では、環境保全のために様々な施設を運用しています。



### 1 緩衝緑地帯



プラントの周りは全体で6万㎡の緑地帯があります。クロマツをはじめ、1万本以上の木々があり、春には桜が綺麗に咲き、秋にはドングリがたくさん実ります。

### 地下水の管理

1997年、ステンモノマープラントにおいて有害物質であるベンゼンの漏えいによる土壌、地下水の汚染が確認され、地域の皆さまには大変ご心配をおかけしました。漏えい箇所は、現在も地下水の汲み上げによる回収を行い、拡散防止と浄化に努めています。

### 2 地下水浄化設備



浄化用汲み上げ井戸

半年ごとに事業所敷地境界の地下水観測井戸11箇所(※マップ▲表記)で地下水モニタリングを行い、ベンゼンが検出されないことを確認しています。

### 廃棄物の保管

廃棄物処理法およびPCB特別措置法に従い、日々適切に分別、保管、処分を行っています。

### 3 共通廃棄物保管場



廃棄物を種類ごとに分別し一時保管しています。その後、処理会社へ運んでリサイクルしています。

### 4 PCB\*保管倉庫

\*ポリ塩化ビフェニルの略



PCB廃棄物は処分までの間、倉庫内で適切に保管しています。残りはペール缶1個分となり、2023年度中に全ての処分が完了する予定です。

### 水質の保全

1次排水路には、万一車両などから油類が漏れた際に海に流れ出さないようにするための油水分離装置や遮断堰を設置、さらに、早期に油類の流出を発見できる検知器を設置し、24時間監視しています。

また、2次排水は、事業所内の活性汚泥などで浄化処理した後、異常がないか自動分析計で24時間監視をしています。

1次排水・2次排水ともに、自動分析計での監視に加え、検査部門による分析を実施し、日々水質を確認しています。

**1次排水とは**、雨水や冷却に用いた水(海水)などの直接海に放流できる排水です。

**2次排水とは**、工場内で出た汚れた排水や生活排水などの浄化処理が必要な排水です。

事業所内で1次排水と2次排水を完全に分けて排水しています。



#### 5 1次排水出口(海水放流口)



1次排水は、鹿島港に放流されます。万一の海への油流出を防ぐため、オイルフェンスを設置しています。

#### 6 2次排水最終出口



2次排水は、茨城県特定公共下水道(深芝処理場)へ送られ、そこでさらに微生物を利用して浄化し、海に放流されます。

#### 7 排水処理設備(活性汚泥設備)



好気性微生物の力を利用して、2次排水の汚れ(有機物)を分解し、基準値以下にしています。

#### 8 AOP設備\*



\* 水と複数の酸化剤(当社の場合、オゾンと過酸化水素)との反応により水中の汚れを分解する設備です。

2次排水中に含まれる有害物質(1, 4-ジオキサン)を分解し、基準値以下にしています。

### 大気の保全

排ガス処理設備などを適正に運転することで、大気汚染の防止に取り組んでいます。

#### 9 フレアー設備

安全装置のひとつで、事業所内で発生する余剰ガスを安全に燃やして処理する設備です。煙突に似た形の「エレベーターフレアー」と、ガスを内部で燃焼する「グランドフレアー」があります。

事業所内で余剰ガスが発生した時に、エレベーターフレアーから炎が上がる場合があります。ご心配をおかけしますが、安全確保のための装置です。ご理解をお願いします。



エレベーターフレアー グランドフレアー

#### 10 揮発性有機化合物(VOC)吸収設備



タンクから出るVOCガスを水や溶剤で吸収し、大気への排出を防ぐ設備です。排出口では定期的にVOC濃度を測定し、基準順守に努めています。

#### 11 高層煙突



鹿島コンビナート建設時の環境アセスメントに基づき、煙突を高層化しています。

## 廃棄物の管理に対する取り組み

### ゼロエミッション

三菱ケミカルでは全社活動として、事業活動で発生した廃棄物の埋め立て処分量ゼロ、全量リサイクル化に取り組んでいます。

茨城事業所では2009年にゼロエミッションを達成し、以後継続しています。さらに現在は、廃棄物の発生量そのものの削減を目的として、分別の徹底と廃棄物の有価売却に取り組んでいます。

**ゼロエミッションとは、**  
直接・間接埋立量を廃棄物発生量の1%以下にすることです。  
茨城事業所では、埋立量ゼロを継続しています。



### 事業所緩衝緑地帯保護への取り組み

茨城事業所の開設当時から保持してきた緩衝緑地帯では、2017年度より鹿島地域に在来する植物を保護する活動に取り組んでいます。

#### 鹿島地域古来のクロマツの保護

鹿島地域古来のクロマツは、臨海工業地帯を造成するにあたり、多くは伐採されました。また、鹿島地域は松枯れ病の激甚被害地であり、鹿島地域古来のクロマツは残っていないと考えられていました。

しかし、この緩衝緑地帯の造成には元々生育していたクロマツをそのまま活用したと考えられるため、鹿島地域古来のクロマツが生存している可能性があります。

茨城事業所では、このクロマツを保護するために種子を採取し、育成する活動に取り組んでいます。2022年から2023年にかけて240本の苗木を緩衝緑地帯に植樹しました。



【緩衝緑地帯内の風景】



2019年9月 種子採取



2020年5月 種まき



2020年12月



2021年8月



2022年8月



2023年8月

### 環境法令改正等への対応

法改正の動向を注視し、法改正があった場合は、所内規程や運用の見直し、関係者への周知など、適宜必要な対応を行っています。

2022年4月にプラスチック廃棄物の排出抑制や資源循環の促進を目的とした「プラスチック資源循環法」が施行されました。茨城事業所では、従来よりゼロエミッションなど廃棄物の削減に取り組んできましたが、今後はプラスチック廃棄物に焦点をあて、さらなる削減に取り組んでいきます。

2023年2月には「水質汚濁防止法」の指定物質に4物質が追加されました。この4物質のうち、PFOS、PFOA※は一部の泡消火薬剤に用いられているため、その保有状況を確認するとともに、万一消火活動で使用した際の対応などを確認し、所内運用に織り込みました。

法改正の最新情報を入手してチェックしています。



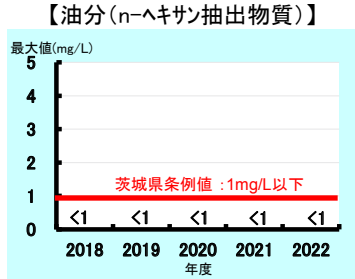
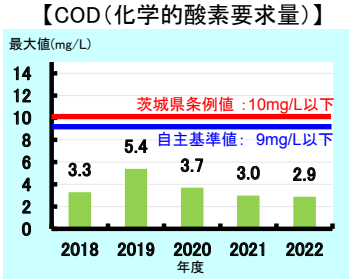
※PFOS(ペルフルオロオクタンスルホン酸)、PFOA(ペルフルオロオクタン酸)は、環境中に放出されても分解されずに残留し、人が取り込んでしまうと体内に蓄積されるなどその有害性が指摘されています。



## 環境保全の実績

茨城事業所では、環境法令規制値の遵守はもちろん、さらに厳しい自主管理基準を設け、その徹底を図っています。定期的な測定の結果、水質、大気、騒音、臭気など全ての管理項目で基準値以下であることを確認しています。

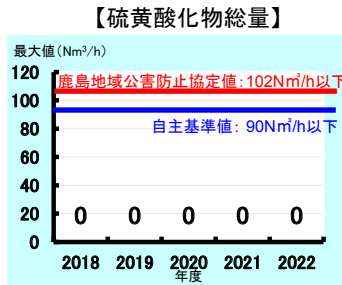
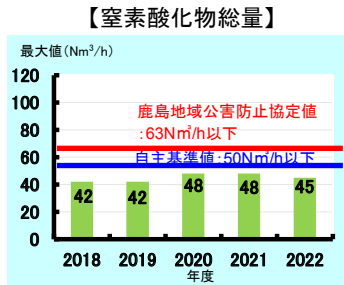
### 水質(1次排水) <水質汚濁防止法>



CODとは、水の汚れ具合を表す指標で、この値が大きいほど水が汚れていることを示します。

CODのほかに、pH、SS濃度、油分、ベンゼン濃度、フェノール類濃度などを定期的に測定し、問題ないことを確認しています。

### 大気 <大気汚染防止法>



硫黄酸化物や窒素酸化物とは、燃料を燃やすときに発生する物質です。酸性雨や光化学スモッグの原因になります。

※一部のデータのみを掲載していますが、その他の管理項目も基準値内で問題ありません。

## エネルギー消費量削減への取り組み

エネルギー資源の枯渇や、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出削減による地球温暖化の防止といった観点から、使用エネルギーの削減は重要なテーマです。

### エネルギー消費量の削減実績

2022年度は、設備改造やプラント運転条件の最適化による省エネ施策を推進し、原油換算で年間1,550キロリットル(一般家庭1,250世帯の電気使用量に相当)の省エネを達成しました。

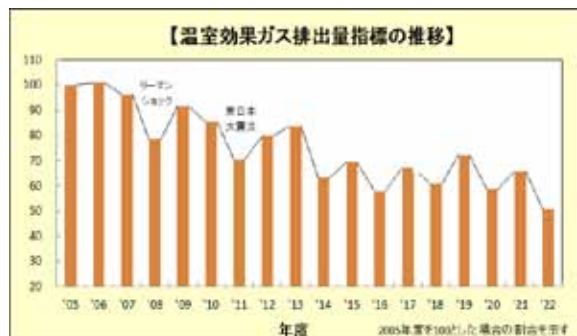
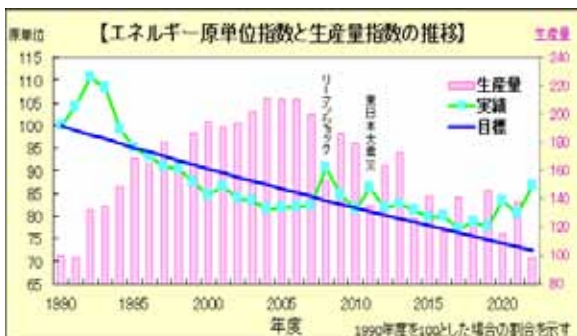
### エネルギー消費量(エネルギー原単位)／温室効果ガス(CO<sub>2</sub>など)排出量の推移

製品を作るのにどれだけのエネルギーを消費したかを、「エネルギー原単位」という指標で管理しています。各年度ごとに前年度比1%ずつ削減するという目標を立てて継続的な改善に取り組んでいます。

近年の生産量減少に対しては、稼働率に応じてエネルギー原単位を最適化する対策を推進中です。また、省エネ施策の推進と並行して温室効果ガスの排出実績を継続的にモニタリングしています。

エネルギー原単位の式

$$\text{エネルギー原単位} = \frac{\text{エネルギー使用量}}{\text{生産量}}$$



# 6 品質保証・製品安全への取り組み



茨城事業所では、品質マネジメントシステム (ISO9001) を運用し、生産活動を行っています。そして、社内の品質監査や第三者機関の審査によって、その活動を検証し、品質問題の未然防止、透明性の確保に努めています。

## 品質マネジメントシステム

茨城事業所では、お客さまに安心いただける製品をお届けするための仕組みとして1996年3月よりISO9001（品質マネジメントシステム）の認証を取得し、これまでに25年以上の運用実績があります。コロナ禍にはリモートで認証機関の審査を受審していましたが、昨年度は3年ぶりに現地審査を行いました。

**ISO9001とは、**  
お客さまや社会が要望する製品を継続的にお届けするための仕組みで、国際相互承認された第三者機関による認証規格です。



## 品質データ信頼性向上の取り組み

近年、日本企業の品質不祥事が相次いでいます。茨城事業所では自動データ処理システムを導入し、品質データの約半数を人の介在が不要な電子処理とすることで、データの信頼性、透明性の向上を図っています。また、さらなる信頼性の向上をめざして、試料前処理工程の機器化、試験データ取り扱いの自動化等を進めており、今年度中に一部製品での実運用を開始する予定です。これらの取り組みは検査員の業務負荷の軽減にもつながっており、働きやすい職場環境づくりにも寄与しています。



## 製品情報提供の取り組み

お客さまに製品の安全な取り扱いと製品に含有される化学物質の適正な管理を行っていただけるよう、GHSに対応した製品安全情報の表示やchemSHERPAを用いた情報の円滑・効率的な伝達を行っています。

**chemSHERPA(ケムシェルパ)とは、**

製品に含有される化学物質情報を川上企業から川下企業までサプライチェーン全体で適正に管理・運用するため、経済産業省主導でリリースされた含有化学物質伝達ツールの名称です。



**GHSとは、**

「化学品の分類・表示に関する世界調和システム」の略で、世界的に統一されたルールに沿って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類して絵表示等を用いて分かりやすく表示し、その結果をラベルや安全データシートに反映させて提供するシステムのことで、

絵表示またはシンボル



ちよつと一息



## 事業所の風景

一見、機械ばかりで無機質に感じる事業所の中にも、実は、たくさんの自然を見ることができます。野鳥やノウサギ、タヌキなどの野生動物を見かけることもあります。



私たちは、環境保護と事業活動の両立に、日々、力を尽くしています！



# 7 保安防災への取り組み

茨城事業所では、保安安全活動の企画・推進により保安リスクの低減を図り、安全・安定運転へ向けた取り組みを実施しています。

## 自主保安への取り組み

### 自主保安力向上へ向けた取り組み

茨城事業所は、高圧ガス保安法、労働安全衛生法に基づいた自主保安認定を取得しています。この認定では、保安・設備・運転の管理体制が整備されていること、並びにこの体制を継続的に維持向上することが求められ、5年毎に更新審査を受けています。

また、自主保安力向上を目的に安全性を高める技術や人の作業を補完できる技術の導入、現場における創意工夫など、スマート保安(詳細は、P11~12「茨城DX推進の取り組み」を参照)により、安全・安定運転へ向けた取り組みを実施しています。

- ◆高圧ガス完成検査および保安検査実施者認定制度  
2022年6月14日 認定更新認可
- ◆ボイラー等の開放検査周期認定制度  
2022年3月15日 認定更新認可

「気密検査」とは、装置内部に不燃性のガスを常用圧力以上に圧入し、外部には発泡剤を塗布するなどして漏れが無いかを調べる試験です。

「自主保安認定」とは、都道府県知事に代わって、申請施設の特定変更工事に係る完成検査や、施設の運転を停止して、または、運転を停止することなく、自ら保安検査を行うことができる事業所を、国が審査し認定する制度です。



【高圧ガス自主保安認定の完成検査の様子】

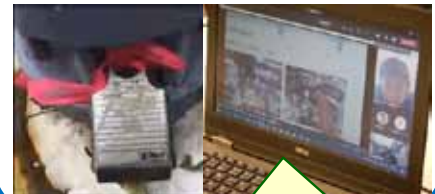
機器の気密検査現場確認



タブレットを活用したリモート監査



拡大図(機器銘板との照合)



「リモート監査」とは、他事業所の監査員がリモートにより申請書類と現地に相違がないかを確認しています。

## 保安関連情報の活用

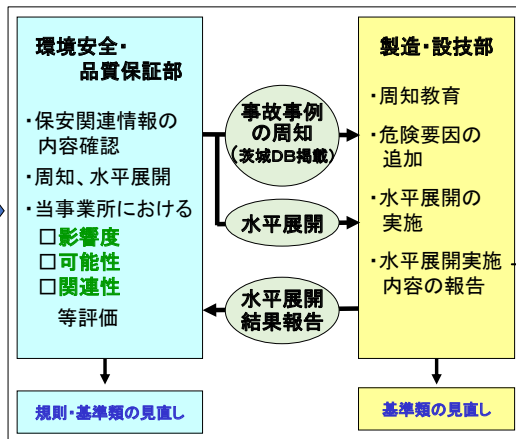
国内外の事故事例情報を収集後、必要な情報を事業所およびグループ会社へ発信し、運転・設備・作業等におけるリスクアセスメントに活用することでリスクの低減を図っています。

### <保安関連情報収集>

- 行政
  - ・関係官公庁
  - ・各種協会等
- 社内
  - ・本社、他事業所
  - ・水平展開
- 事業所内
  - ・事故、トラブル
  - ・水平展開
- 社外
  - ・東部コンビナート
  - ・国内他社
  - ・海外他社

### 【保安関連情報の主な収集と活用】

#### <保安関連情報活用>



### 【製造課リスクアセスメントの様子】



事故事例を事業所およびグループ会社へ発信

## 防災活動への取り組み

### スマート防災への取り組み

災害現場の状況把握、人員確認、避難が必要となった場合の避難範囲および避難ルートなど、迅速な情報共有、作業を補完できる情報のシステム技術を導入し、防災力の向上を図っています。



### 緊急時対応への取り組み

緊急事態発生時に備えて協会社と従業員が連携した防災訓練などを定期的実施しており、有事の際に必要な防災機材の大型化学消防車も最新の消防車両を所有しています。

また、事業所消防隊員の技能向上を図るため総務省消防庁が主催する「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」へ出場し、防災力の向上をめざしています。

【事業所配備の消防車両】



【事業所防災訓練】



【技能コンテスト風景】



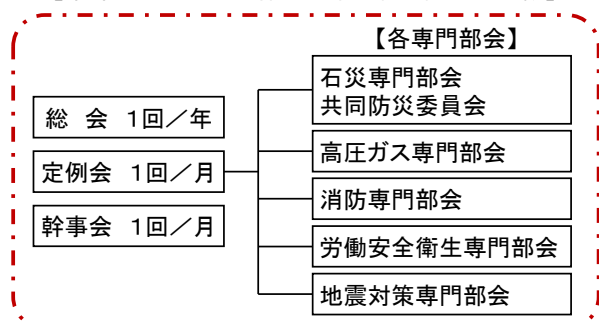
## コンビナートの活動について

### 鹿島東部コンビナート保安対策連絡協議会 (保対協)の活動状況

保対協加盟各社が集まり、総会、幹事会、定例会、各専門部会および保安技術研究会等を通して保安・安全に関する各種情報交換を実施しています。

また、コンビナート間においても、各種防災訓練を実施し、各社の連携訓練を実施しています。

【東部コンビナート保安対策連絡協議会の組織】



# 8 労働安全への取り組み



8

労働安全への取り組み

石油化学プラントにおいては、従業員一人ひとりが、危険や不具合を早期に発見・改善できる知識と技術、高い危険感受性を身に付けることはもちろん、協力会社の皆さまとの一体感なくしては、プラントの安全・安定操業は継続できません。

茨城事業所では、様々な安全活動に協力会社の皆さまとともに取り組むことで、相互に安全意識を高め合い、事故・トラブルの未然防止につなげることをめざしています。

## KY(危険予知)

KYは、作業時の安全意識を高め、災害を防止する上で非常に有効な手段です。

茨城事業所では、日々の作業前に作業安全指示書などを使ってKYを実施しています。また、2023年2月には外部講師によるKY研修を開催しており、事業所全体のKY能力の向上に努めています。

【外部講師によるKY研修の様子】



現場の最前線で指揮をとり、事業所の安全を支えている主任、主任代理、および事業所の設備の安全を担う設備技術部のスタッフを対象に研修を行いました。

2023年6月には、定期修理(定修)を目前に控えた協力会社の皆さまを対象にしたKY研修会を開催し、定修工事スタートからしっかりとKY活動に取り組める体制づくりを行いました。



また、現場で協力会社の皆さまが行うKYに三菱ケミカルの社員が入り込み、作業動線をしっかりと描いているか、危険ポイントが具体的か、対策が的を射ているか、KYの内容について観察と指導を行い、その様子を動画に収めて現場全体で気づきを共有することで、KY活動の底上げを図っています。



【外部講師によるKY研修の様子】

【現場でのKY指導の様子】

## 定期修理(定修)と工事の安全対策

石油化学プラントは、年間を通して24時間連続で設備を動かしていますが、安全・安定運転を継続するために、2年毎(一部の設備は1年毎)に設備を止めて、点検や補修、改善を行っており、これを定期修理(定修)と呼んでいます。

### 2023年定修での取り組み

2023年は小規模定修の年に当たり、他のプラントが通常運転を継続中、酸化エチレン、エチレングリコール、エチレンカーボネートのプラントのみ定修工事を実施しました。

事前のKY研修やVR体感教育、現場でのKY指導の他、デジタルサイネージによる情報や気付きの共有、声掛けパトロールの実施など、関係者全員で安全対策に取り組み、無事、ゼロ災害で定修を完遂することができました。



【事業所長パトロールの様子】

定修工事に従事する皆さんの健康とモチベーションアップを目的に2022年から導入したケータリングは今年も好評で、沢山の方にご利用いただきました♪



### 2024年定修へ向けた取り組み

2024年は全てのプラントを停止して行う大規模定修の年に当たります。茨城事業所では2022年9月に「茨城定修プロジェクト」を発足させ、これまでの定修の反省事項を踏まえた基準や労務管理、工事管理等の見直しの他、さらなる先進技術導入の検討を進めるなど、安全で快適に、効率よく定修を進められるよう、早くから準備に取り組んでいます。

## 風化防止の取り組み

茨城事業所では、2007年12月21日に、4名の協力会社の方の命を奪う大変重篤な事故が発生させました。二度と同じ過ちを繰り返さないために、この事故がどのようにして起こったのか、何が問題だったのか、この事故を経験していない従業員にもしっかりと語り継いでいくために、毎年12月21日を茨城事業所安全の日と定め、安全意識を高めるための行事の開催の他、事故風化防止教育や討議を行い、全従業員が次の1年間に向けた安全宣言を実施しています。そして、毎月月命日には事故発生の時間に合わせた黙祷と安全メッセージの放送を行い、安全への決意を新たにしています。

また、7月には世界中の拠点が参加するMCGグループ安全大会が開催され、事故風化防止のための動画やメッセージが中継されて、茨城事業所で起こった事故の教訓が全社に共有されています。



【月命日の黙祷の様子】



【全社安全大会中継の様子】



【風化防止教育の様子】

# 9 地域・社会から信頼される事業所をめざして

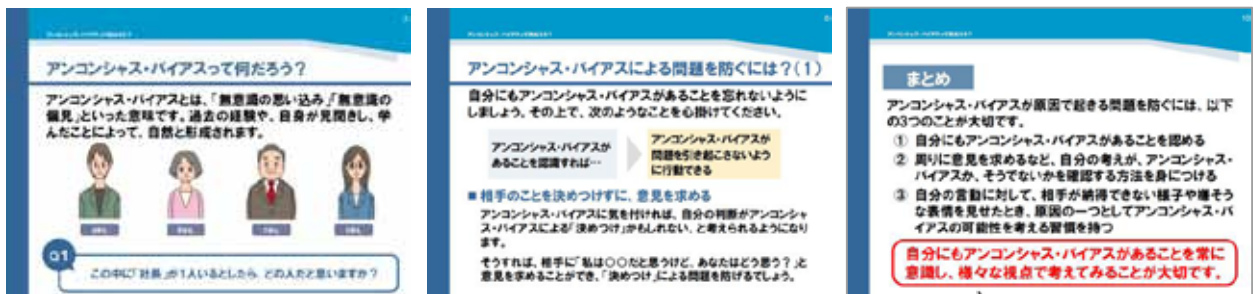


## コンプライアンス推進のための取り組み

茨城事業所では、企業の社会的責任を強く自覚し、日頃からコンプライアンスを推進し、従業員一人ひとりの意識と感性を高める取り組みを行っています。

時事に合わせたコンプライアンス教育事例を発行し、日頃の行動の何気ない箇所にも、コンプライアンスを意識すべき点があることを、全員で共有しています。

【コンプライアンス教育事例（2022年9月号の例）】



コンプライアンスとは、「法令および企業倫理の遵守」を言いますが、コンプライアンスの推進にあたっては、一人ひとりが日頃から高い倫理観をもち、誠実に行動し、社会の皆さまからの期待に応えていきたいと思っています。



## 地域貢献

### 産業医学基礎研修の受け入れ

茨城事業所が立地する神栖市では、地域医療の振興を目的として、若手医師が魅力を感じる独自の医療教育・研修環境作りを進め、これらを全国に発信するとともに、若手医師・指導医ともに、神栖市でいきいきと活躍するための事業「神栖市若手医師 きらっせプロジェクト」を推進しています。

当該プロジェクトの一環となる認定産業医の資格取得のための産業医学基礎研修を茨城事業所で受け入れました。



### 高校生向けキャリア教育の実施

高校生向けキャリア教育は、近隣高校をはじめ、宮城県内の工業高校を中心に行っています。本教育では職業観・勤労観に加え、社会人としての行動、仕事をするうえで大切なことや、学生時代から意識しておくこと、先輩社員からのメッセージなどを伝えています。





## 地域とのコミュニケーション

活動の実施にあたっては、関係先と十分に協議のうえ、感染防止対策を講じたうえで取り組みました。

### 出前化学実験教室

2023年2月に、近隣小学校の5年生約250人を対象に、「プラスチックのリサイクル」と「空気はカもち」と題した空気圧の実験教室を行いました。

リサイクル実験では、プラスチック資源の循環の仕組みをより身近に感じてもらいました。空気圧の実験では、ビニール袋を使ったエアージャッキにエアポンプで空気を送り込み、担任の先生を持ち上げると、皆さん驚きの声を上げていました。

2000年に開始したこの「出前化学実験教室」は、近隣の小学生に化学への関心を持ってもらう機会として毎年実施しており、これまで、延べ約5,450人が参加しています。



### 定期修理期間の交通立哨

2023年5月および6月に、コンビナート定期修理期間に合わせ、登校時間に車両交通量の増加が予想される通学路や、軽野東小学校の正門の前で交通立哨を行いました。小学生からの元気いっぱいの挨拶に活力をもらったり、大きなランドセルを背負う1年生を見て、ほのぼのとした気持ちになりました。



### 実習生の受け入れ

茨城県では、高校生を対象に、働くことや働く上で大切なことを学ぶ「デュアルシステム(企業実習制度)」を、2008年より実施しています。

2022年10月～2023年1月の間、全9回にわたり、波崎高校 工業化学・情報科の2年生6名が、当事業所で企業実習を受講しました。



### 白砂青松ボランティアに参加

2023年3月、茨城事業所では、神栖市美化運動推進連絡協議会主催の、海岸沿いにクロマツを植栽・整備する「白砂青松プロジェクト活動」に参加しました。今後も継続して参加することで、地域の環境整備に貢献していきます。



植樹したクロマツ

その他にも、近隣行政区環境美化清掃、日川浜海岸清掃への参加、使用済切手、ベルマークやペットボトルのキャップの回収、募金などなどの社会貢献活動を行っています。



# 10 多様な人材がイキイキと活躍できる職場づくり

## ライフスタイルに合わせた柔軟な働き方(両立支援)



三菱ケミカルは、育児や介護を行う従業員の支援はもちろんのこと、一人ひとりのライフプランへの配慮を行い、多様な人材が意欲高く働くことができる制度を設け、仕事と家庭の両立を支援しています。

### 男性従業員の育児休職取得促進

育児をしながら働く従業員を長期的視点で支援し、両立しやすい環境を整えています。スムーズな育児休職の取得と復職を支援するため、育児休職取得前(女性は産休取得前)に上司との面談を必ず行い、復職後の働き方などについて話し合ったり、「保活(=子どもを保育園に入れるため保護者が行う活動)コンシェルジュサービス」を導入しています。

また、男性が育児に参加しやすい環境を充実させるため、配偶者出産休暇の取得可能期間を長くしたり、子供が生まれる予定の男性従業員と上司が育児との両立を一緒に考えるための啓発動画や、「仕事と育児の両立支援ハンドブック」の公開を通じ、男性の育児休職取得促進の風土づくりを行っています。



### キャリア・両立支援のサポート

従業員による主体的なキャリア形成を促進するため、外部有識者の講演会や様々な経歴の従業員インタビューの紹介などを行う「キャリアフェア」、中長期的な観点から自身のキャリアプランについて上司と話し合う「キャリアデザイン面談」、同世代でキャリアについて考える「年代別キャリアワークショップ」など、様々な支援を行っています。また、気軽にキャリアについて話ができるように「いつでもキャリア相談」という窓口を設けて、社内の有資格者に相談できる環境を整えています。

さらに、茨城事業所では「両立支援コーディネーター」を配置しており、介護・育児・治療と仕事の両立に関して困ったことがあればいつでも相談することができます。

### テレワーク制度

従業員が生産性高く働くための環境整備の一環として、また、新しい生活様式を踏まえて、テレワークを推奨しています。

1週間のすべてをテレワーク勤務可とすることで、より柔軟な働き方に対応しています。

### 企業主導型保育事業との提携



子育て中の従業員の多様な働き方をサポートするべく、育児をしながらでも働き続けることができるよう、地域の保育施設と提携しています。

### 職場のコミュニケーション活性化

職場の一体感や良好な人間関係のさらなる醸成を目指し、コミュニケーション活性化に向けた取り組みを行っています。

褒め称えあう事業所文化の醸成に向け、従業員同士が称賛・共感・感謝・敬意等を感謝状として贈りあう社内コミュニケーションツール『いばらきKAITEKIの樹』や、職場の課題などについての議論・懇談に対する費用補助制度、従業員同士の懇親に係る移動費補助制度の運用に加え、コロナ禍で中断していた厚生行事(任意参加)も再開しました。



【厚生行事(綱引き大会)の様子】

### 更衣棟のリニューアル(建設中)

従業員が出退勤時にON・OFFを切り替えやすい環境を整えるため、老朽化した更衣棟の建て替え工事をしています。



【更衣棟の完成イメージ図】

## 自立・成長に向けた支援

### 知手寮(独身寮)

2021年9月に全ての工事が完了した知手寮は、プライベートを重視した居室や、トレーニングルーム・学習室等の設備を完備し、充実した私生活を送ることができます。さらに、各階のリラクゼーションスペースやBBQも楽しめる屋外多目的スペースもあり、寮生同士が気軽に交流することもできる施設となっています。



### 会社への早期定着に向けた若手社員フォロー施策

若手社員を対象として人事が毎年フォロー面談を実施し、職場や会社生活への適応やその不安・心配事などについてヒアリングを行い、必要に応じて支援しています。また、新入社員(技術系職種、事務系職種)が円滑に社会人生活をスタートできるよう、比較的年齢の近い他部署の先輩社員(メンター)が新入社員の日頃の悩みなどに対して相談にのり、サポートしていきます。このように、職場だけでなく部署の垣根を越え、事業所全体で若手社員を支援・育成しています。

技術系職種とは、プロセス開発(生産技術)、プロセスエンジニア(製造技術)、プラントエンジニア(設備技術)などを指し、事務系職種とは、生産管理、人事、総務、購買、物流、知的財産(契約)などが該当します。



## 健康支援

### 健康診断実施後のフォロー

産業医(医師)や保健師は従業員の健康診断結果を確認しており、重篤な健康障害を起し、イキイキと働けなくなってしまうリスクが高い従業員には、医療機関の受診を勧め、結果の確認を行っています。

万が一受診結果に懸念があれば、従業員の上司や人事と連携の上、従業員の業務を調整するなど、働くことで体調が悪化しないように配慮することもあります。また、生活習慣の改善が望ましい従業員には、外部の管理栄養士が電話やメールでアドバイスを行うプログラムへの参加を促し、健康の保持増進を図っています。

### 心身の不調に対するフォロー体制

心や身体の不調を抱えたときには、一人で悩むことのないようにフォロー体制を整えています。産業医(医師)、保健師、カウンセラーが相談にのり、健康を取り戻すためのアドバイスや病院の紹介をします。

なお、プライバシーの保護には注意しており、相談内容を相談者の承諾なく他言することはありませんので安心して相談することができます。



【面談イメージ】

10

多様な人材がイキイキと活躍できる職場づくり

# 職場紹介

## ★ ポリエチレン課 ★

チーム力により、2023年9月末現在で  
ゼロ災害 8, 193日を達成し、現在も継続中！



### ポリエチレン課のお仕事

ポリエチレン課は、エチレン課から受け入れたエチレンを原料に、ポリエチレン樹脂の製造を行っています。ポリエチレン樹脂は、熔融温度の特性から容易に容器や包装に加工できるメリットを活かし、私たちの日常生活に不可欠な製品として様々な形で皆さんの周りに普及しています。



ポリエチレンは  
みなさんの身の回りの  
色々な所で活躍  
しています！



近年、ポリエチレン製造技術の深化による製品の高機能化、および高性能化、そして生産性向上の追究を継続するとともに、技術力向上を図っており、より良い商品を、より安全・安定にお客様へお届けし、社会に貢献できるよう努めています。

### ポリエチレン課はこんな課です！

私たちポリエチレン課は、とても明るく、大きな声でコミュニケーションする人が多い職場ですが、

- 思いやり活動の推進により、「相手を気遣い声を掛け合うことの習慣化」
- 提案形式(私の考えはこれです！)の推進により、「自分の意見を具体的に伝えることの実践」

を心掛け、情報共有を密にするとともに、お互いがサポートし合える「高いチーム力」を日々養いながら業務に取り組んでおり、明るく活力ある職場づくりを行っています。



朝会の様子

全員で情報共有し、  
過去の災害事例紹介など  
にも意見を出し合い、知識の  
補強に繋がっています！



## 先進技術の活用にも積極的に取り組んでいます！

ポリエチレン課では、DXにも力を入れており、高度制御による生産技術の促進のほか、アプリ開発ツールを活用し、自分たちで業務に活用できるアプリの開発にも取り組んでいます。

現在、各種アプリを活用した点検や、業務効率化、情報共有や教育のための動画集、在庫管理などのアプリを開発中です。

### 【自分たちで開発したアプリの例】

アプリ開発を勉強しながら、自分たちで地道にやりたいことを形にしています。

DXによる改善は、派手で大きなものは少ないですが、「こうしたらもっと便利」、「こうしたら仕事をもっとやりやすくなる」という気づきを大切に、効率化に向け自分たちでできる小さな改善にコツコツと取り組むことで、働きやすい職場づくりにつなげています。

## 表彰されました！

### 優良玉掛け業務従事者受賞！

2023年5月、日勤班の横沢 孝司さんが、水戸市で行われた日本クレーン協会茨城支部の優良クレーン運転士等表彰式にて「優良玉掛け業務従事者」を受賞し、表彰されました。



### 事業所で表彰されました！

2022年1月に運転合理化を達成した取り組みが事業所長表彰を、2023年2月に小集団活動で行った生産ロス削減の取り組みが小集団活動発表会で特別賞を受賞し、事業所長から表彰されました。これからも、より安全・安定・効率的な運転をめざして挑戦を続けていきます。

【小集団発表会】



【事業所長表彰】

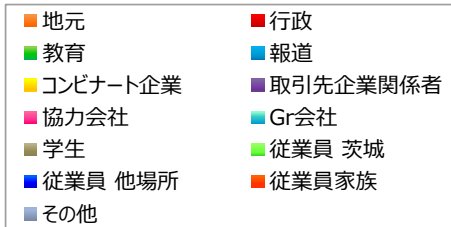
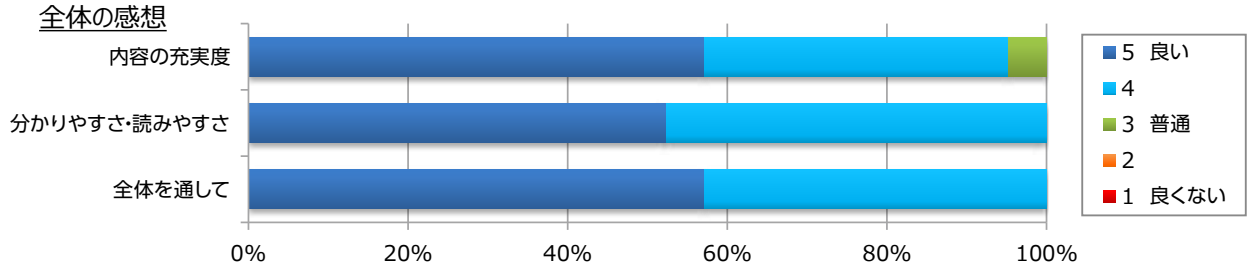


# 11

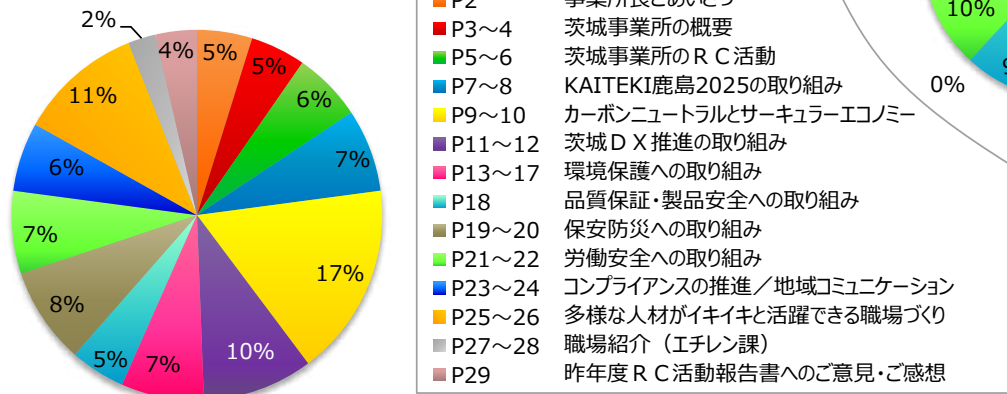
## 昨年度 R C 活動報告書へのご意見・ご感想

### ■ 皆さまからのご意見・ご感想

たくさんのご意見をいただきありがとうございました。皆さまからいただいた貴重なご意見を参考に、より分かりやすく読みやすいレスポンスブル・ケア活動報告書を目指してまいります。ぜひ、ご意見・ご感想をお寄せください。



### 興味・関心を持たれたページ



ご協力ありがとうございました  
ございました



- サステナブルな事業にも力を入れていかないと、社会から求められ、地球環境を守るため必ず取り組んでいく必要があるため、これからも頑張ってください。
- 全員が誇り…実現する、高い目標です。我々協力会社も全面協力をしたいです。
- プラスチックを原料としたエチレン・プロピレン製造は、先進的で非常に興味深い内容でした。
- RC活動の内容と取り組み、今後の取り組みについて、理解しやすい内容だった。
- 日本国内にとどまらず、世界を牽引する化学メーカーとして、未来に向けてのチャレンジ精神が強く感じ取れた。
- 職場紹介が良かったです。各プラントをまた知りたいです。
- 第一線所属員の生の声を吸い上げる機会をもっと増やしていただき、活動をさらに充実させていただければ幸いです。



左のQRコードから、WEBでアンケートに回答することができます。たくさんのご意見を心よりお待ちしております。なお、WEB版では住所・電話番号等の個人情報の確認は行っておりません。QUOカードプレゼントにご応募される方は、本誌に同封の郵送用アンケート用紙にてご回答ください。

# 三菱ケミカルグループは SDGsを支援しています

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際社会全体の開発目標で、持続可能な世界を実現するための17の目標、169のターゲットから構成されています。



私たち三菱ケミカルは、MCGグループの一員としてKAITEKI実現をビジョンに掲げ、そして、事業を通じて社会の課題に向き合い、新しい価値を創造してお客様へソリューションを提供し、社会とともに持続的に成長していくことを表明しています。そのため、私たちが提供する製品・サービスなどの取り組みの多くはSDGsに貢献するものと考えています。

茨城事業所は自治体や他社とも連携しながら、先進的な取り組みでSDGsを支援し、社会課題の解決をめざしています

三菱ケミカル株式会社 茨城事業所

環境安全・品質保証部

〒314-0102 茨城県神栖市東和田17-1

TEL: 0299-96-1142

FAX: 0299-96-1195

三菱ケミカルホームページアドレス

<https://www.m-chemical.co.jp>

